

9月13日(金)

第2回 学校評議員会

本校の教育実習について

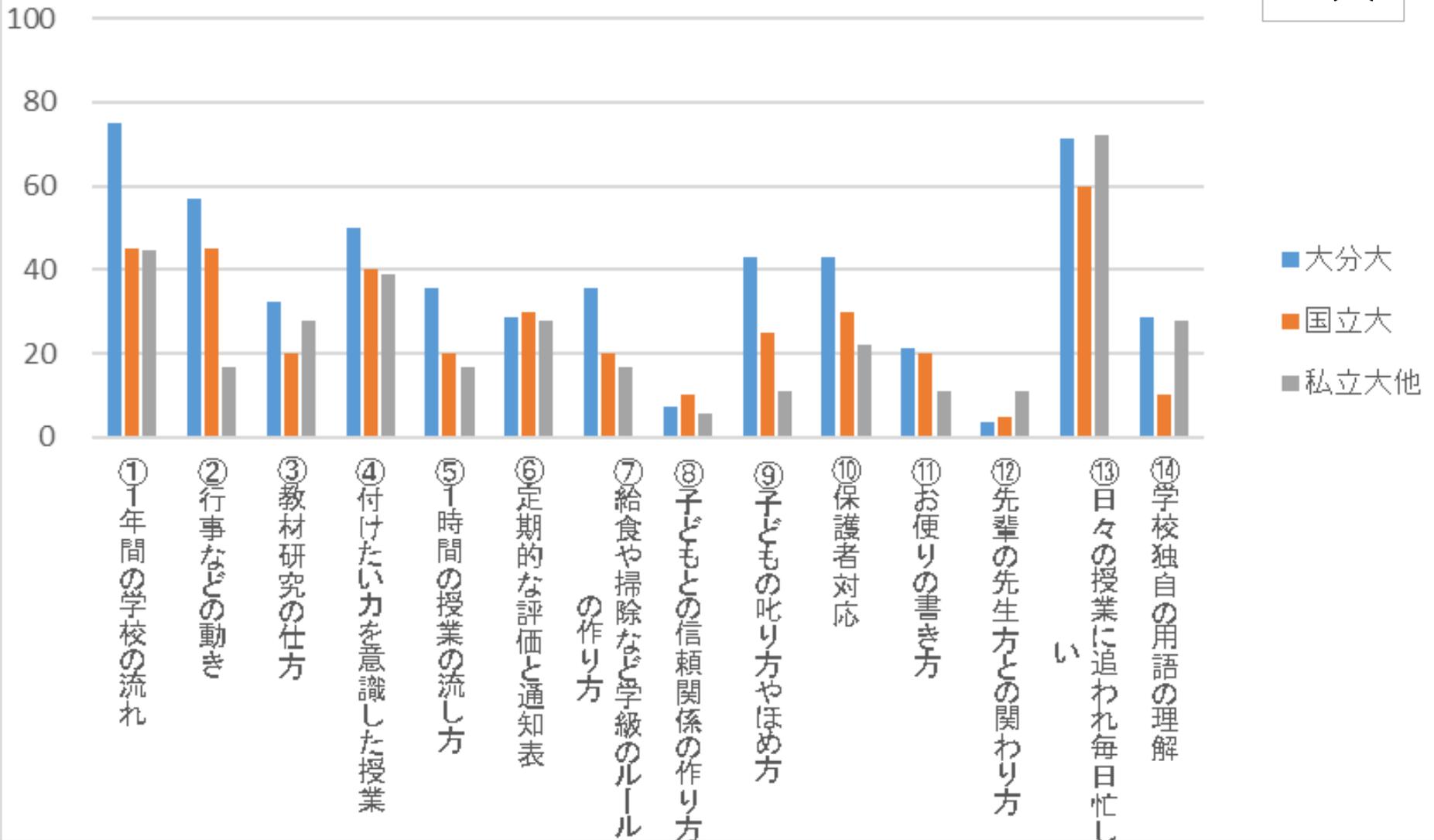


大分大学教育学部附属小学校
指導教諭 梅木 崇裕

はじめに

平成28年度 新採用者が「強い困り」を感じる事項(大学間比較)

66人



県教委(県教育センター)と連携して、平成28年度から新採用者に追跡アンケートを実施
→結果を大学と共有

はじめに

卒業生の声...

実際の業務を少しでも経験する機会を増やしてくれると現場に出たときに混乱しなくて済むと思う。(平成24年卒)

教育実習では授業についてしかなかった。(平成25年卒)



毎日バタバタと走り抜けとても辛かったように思います。子供との信頼関係、保護者との関係、行事が近づいた時の日課表の組み方など少しでも知っていたら...。(平成26年卒)

実際の学校の流れをつかむようなことがあれば嬉しい。1時間の授業の立て方、指導案の鑑の部分より本時の立て方をもっと学びたかった。(平成27年卒)

はじめに

附属小教員の声...

事前に打ち合わせがないので、何をどうすればいいのかわからずにこっそり隣の先輩の指導を見に行っていました。

本時案ありきの指導案作成や指導案の鑑の部分作成に重きを置く実習では現場に出で困るのでは...

実習生の授業を模造紙5枚分くらいに書き起こしていたけど、あれは何かの役に立ったのかな。

実習生はひたすら授業記録をとる。私たちはそれを毎日読んで返事を書く...。給食を食べる暇もなく、辛かった。



大学教員の声...

職員室はピリピリしていてちょっと入りづらい雰囲気でしたね。できれば近づきたくないというか...

附属の研究や事後研修は独特でした。大学の職員が口が出せない感じでした。



附属学校の教育実習改革

指導案作成に重点を置いた指導（附属学校単独）

授業は**一人3回**あとはひたすら**授業の記録**

- ・授業は附属学校の進める形態
- ・授業後は模造紙に発言の書き起こし

帰宅は**21時以降**

- ・実習に来て一からの授業づくりを学ぶので土日に学校に来て指導を受ける実習生もいた

日記のようなレポート

- ・書く視点がなく同じような内容を毎日提出

共通理解がないままの指導

- ・事前の打ち合わせがなく、実習主任が大学で講義した内容も知らされない。個々の教員に任せられた指導



生活指導と指導案作成のバランスを考えた指導（学部と連携）

R5～

半日・一日学級担任で担任業務を経験

観察実習中に**校務や保護者対応**について講義

退勤は**16時45分**

- ・観察実習で授業チャレンジ1回
- ・6月に大学の講義で指導案の書き方等についての講義を受ける。
- ・学部の指導のもと板書指導案を一人2本、本実習前に提出
- ・本実習で一人4回授業
- ・指導案は、5本全て実践的で簡単な板書指導案

自分の思考を見直せるレポートに

- ・レポートに書く視点を見出しとして書き、内容も文型をそろえることで整理できるように
- ・毎日提出から……(リレー形式)レポートに実習中に一人6回書く。

指導の重点を共通理解、チームによる指導

- ・実習主任等が教育実習の目的、指導の重点を説明、全員で足並みをそろえた指導に
- ・実習主任が大学での講義の内容を説明し、共有化

生活指導と指導案作成のバランスを考えた指導

半日・一日学級担任制度

＜半日・一日学級担任 日課表イメージ＞

実習生：指原、竹内、諫山（仮名）

	月 指原・半日担任 諫山・半日担任	火 竹内・半日担任	水 指原・一日担任	木 竹内・一日担任	金 諫山・一日担任
そうじ					
朝の会					
1	国語	算数	理科	算数	算数
2	書写	社会	国語	国語	外国語
3	道徳	図工	算数	社会	国語
4	算数	図工	社会	音楽(専科)	体育
給食					
5	理科	国語	学級(担任)	理科	社会
6	特活		図工	委員会	総合
帰りの会					

実際の学校現場での担任業務を意識し半日・一日学級担任で担任業務を経験。
生活指導と指導案作成のバランスを考えた実習指導へと変えた。

学部と連携した教員養成

大学での学習をベースに



子どもと信頼関係を構築する力



授業を分析する力



教材を分析する力



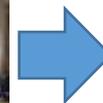
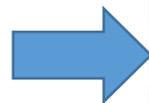
大学との連携について

		1年	2年	3年	4年
学校教育教員養成課程	初等中等教育コース	(附属四校園参加体験 教職入門ゼミ 4回)	介護等体験5日間 (社会福祉施設)	教育実習 (主免2) ①+②	介護等体験2日間 (附属特別支援学校)
	特別支援教育コース		(公立校等参加体験 教職展開ゼミ 2日)		教育実習 (主免1) ①+③
				教育実習 (主免) ①+④	教育実習 (基礎免) ③ 教育実習 (副免) ①+②

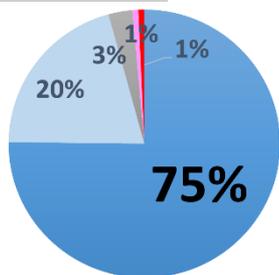
学部1年生から教職への意欲喚起に繋がる実践的指導



教職入門ゼミ

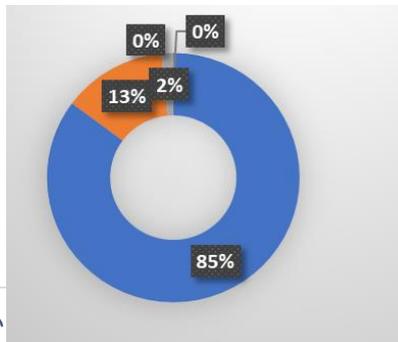


令和2年度



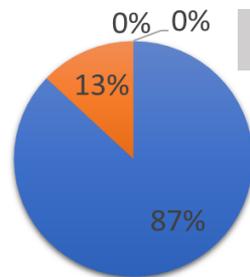
■とてもできた ■ややできた ■どちらでもない
■あまりできなかった ■全くできなかった

令和3年度



■とてもよくあてはまる
■ややあてはまる
■どちらともいえない
■あまりあてはまらない
■全くあてはまらない

令和4年度



■とてもあてはまる ■ややあてはまる ■あまりあてはまらない ■全くあてはまらない

附属小学校の授業観察を通して、教職への関心・意欲を高めることができたか



実践力に繋がる学部のカリキュラムへの協力

指導案書き方演習



学部の教員の指導



現場の教員による
実践的な指導



学部の教員の指導

ICT活用・板書の構造化演習

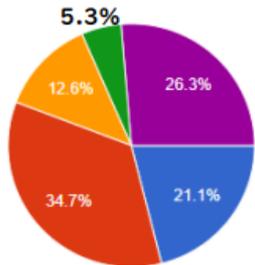


附属小学校
指導教諭
研究主任等

学部3年生板書演習

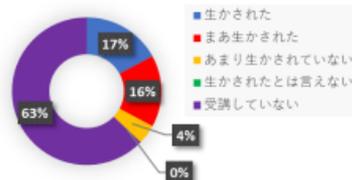


板書演習は、実践力を養うことに有効であったか



- いかにされた
- まあいかにされた
- あまりいかにされていない
- いかにされていない
- 受講していない

R3 <板書演習>



令和4年度

学部4年生教職実践演習

教職実践演習
(学部4年生対象) / 学級経営
2023年10月25日(水)

子どもが生き生き
学級づくり

大分大学教育学部附属小学校

教諭 梅木 崇裕

umeki-takahiro@oen.ed.jp

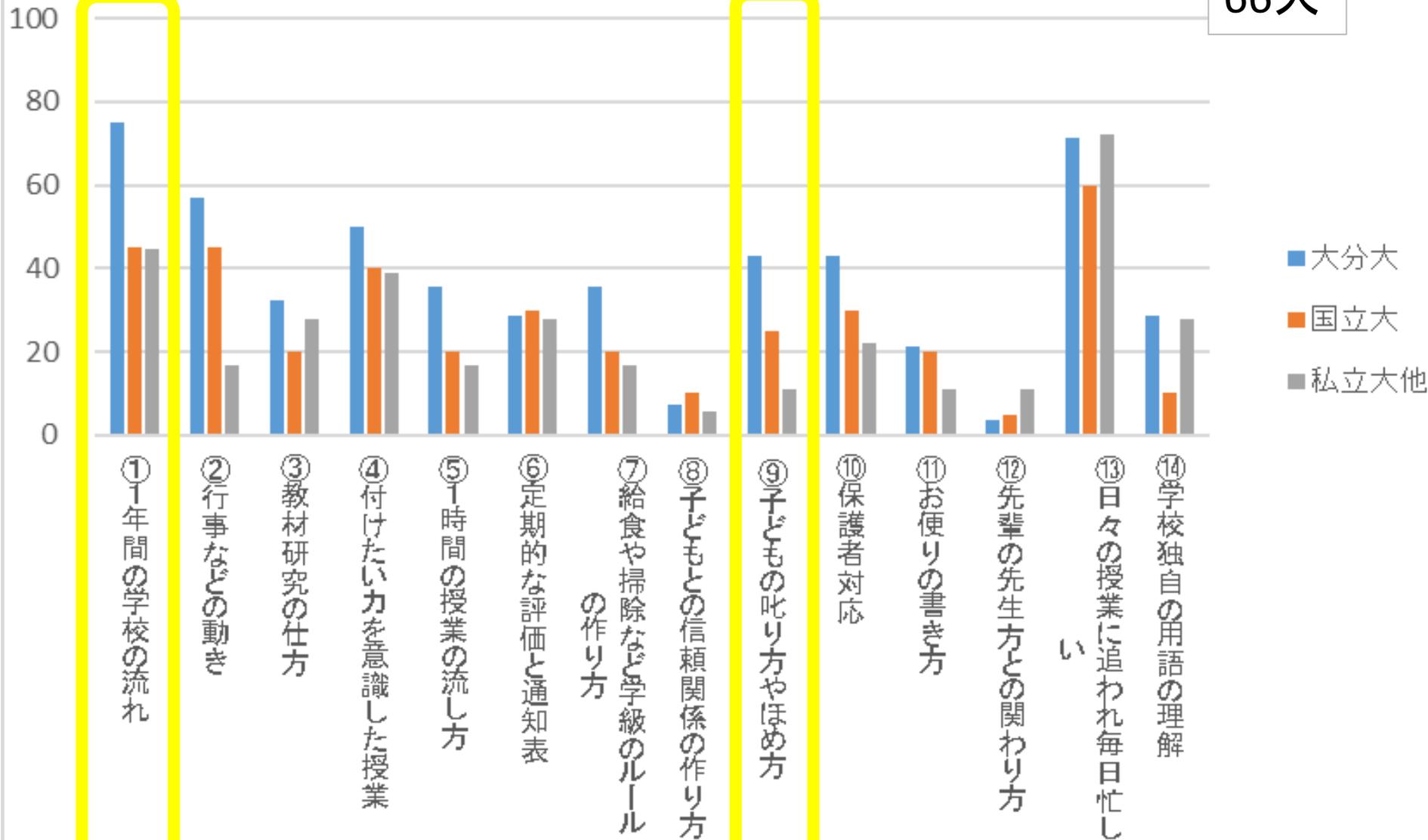
10月25日
日直



大分県教育センターと連携した教員養成(エビデンス)

平成28年度 新採用者が「強い困り」を感じる事項(大学間比較)

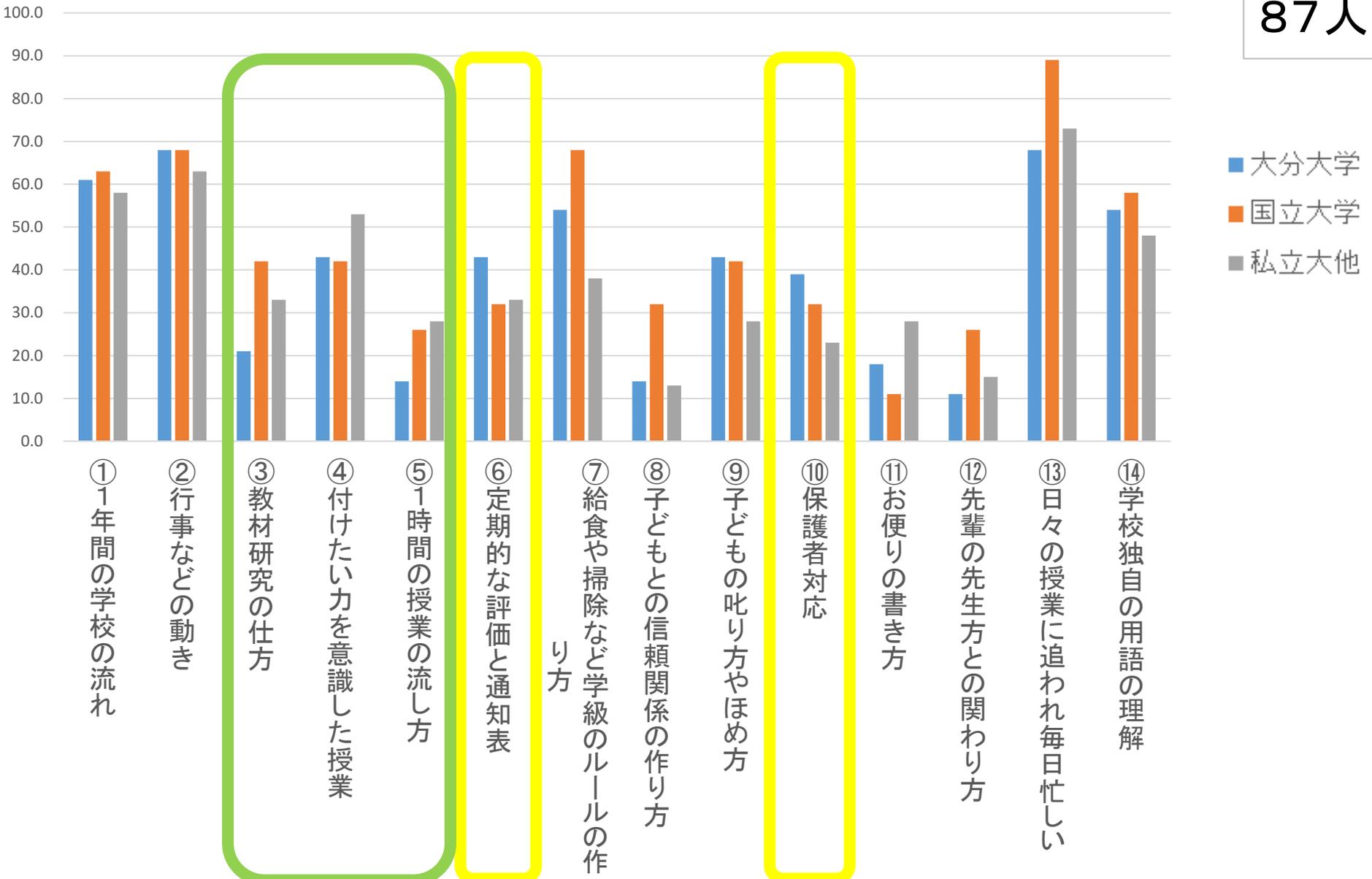
66人



大分県教育センターと連携した教員養成(エビデンス)

(令和6年度)新採用者が強く困りを感じる事項 大学間比較

87人



大分県教育センターと連携した教員養成(エビデンス)

卒業生の声...

校務分掌の内容や仕事が全くわからなかった。(令和5年度卒)

授業はもちろんですが、給食指導や掃除指導、学級規律を整えるためのルールづくりなどの指導もあるととても助かります。(令和5年度卒)

授業の仕方、指導の仕方は教育実習で学んだことが役立っている。(令和5年度卒)



授業の指導だけでなく、叱り方など子どもとの関わり方をもう少し指導していただけたらありがたかった。(令和5年度卒)

附属小学校で学ばせてもらった子供の意見を価値付けること、とても役に立ってます。(令和5年度卒)

令和6年度大分県新採用者へのアンケートより

初任者アンケートから

【実習の学びで生きていること】

- 教材研究の仕方や授業方法
- 価値付けの意義や手立て

【現場に出てからの困り】

- 評価と通知表について

→日常の児童の見取りと記録...習慣化する

(授業記録・掃除の見取り・児童との関わり等)

- 給食や掃除のルールづくり

→目的や手立てを意識して活動に参加する

- 子供との信頼関係づくり

→日常の子供との関わり...実習で経験を積む

実習で
学ぶことが
できる

大分県教育センターと連携した教員養成

エビデンスを基に、実習期間中の指導内容を刷新(R5~)

全職員で実習生を指導する

学校の組織についての講義(校長)

保護者対応・学級経営の講義(教務主任)



給食指導・養護教諭の仕事についての講義
(栄養教諭・養護教諭)

1年間の学校の流れの講義(主幹教諭)

学校の一年間
具体的な学校行事や
1日の動きを通して
大分大学教育学部附属小学校
主幹教諭 朝久野 圭一

教育実習のねらい

再来年の4月から・・・

- I 学校という組織の一員として仕事を任される
- II 社会人として生活が始まる
- III 学級担任として子どもの前に立つ
- IV 子どもの前で授業をする

他の仕事では「研修期間」があり，そこで心構えや仕事内容など学習するが，教員は仕事と研修が同時進行で行われるため，現場では1年目も30年目もほぼ同じ仕事内容

子どもたちや保護者の前では、1年目も2年目も10年目も20年目も同じ先生

即戦力

教育実習のねらい

よって教育実習では、

指導力・実践力

を鍛える必要がある。

自分で判断する力をつけてほしい
自分の適性・指導の善し悪し

令和5年度の教育実習から

めざす実習生の授業での姿

4 5分の授業を新大分スタンダードに基づいて流せる実習生

○授業の基板となる学級経営について、意識して学ぶ。

◎ 1時間の授業を作り、実践することを学ぶ。

○3年生半ばの実習生の到達目標は、単元構想がしっかりできることよりも、45分を新大分スタンダードに基づいて流せる実習生になる。

(単元構想については、意識をすることができるように。)

○新卒新採用になったときに、4月10日から授業を開始するにあたり、毎日の教材研究と授業を困らないように、授業の立案と実際の授業の流し方を、実践を重ねる中で習熟していく。

⇒教科書と学習指導要領を使って授業を組み立てることを基本とする。

⇒採用後使用する指導書(朱書き)の見方・活用の仕方も学ぶ。

実習中にしかできない学びを意識して欲しい

教育実習のねらい

教育実習の評価の観点

＝教育実習で皆さんに身に付けて欲しい事柄

I 教職への使命感・責任感、教育的愛情等に関する事項

II 社会性や対人関係能力に関する事項

III 児童理解や学級経営等に関する事項

IV 教科内容等の指導力に関する事項

具体的にはどういうことだと思いますか

I 教職への使命感・責任感, 教育的愛情等に関する事項

- 課題と改善
- 役割の理解と遂行
- 児童一人ひとりとの対応, 関わり
- 児童の安全や環境整備への配慮

先生なんだということ
を自覚して接
しているか

教職の基礎

II 社会性や対人関係能力に関する事項

- 規範意識
- 社会人としての常識
- 他との協働
- 組織の一員として, 報告・連絡・相談
- 指導への対応

どんな仕事でも
一緒にです

社会人の基礎

目標の設定と振り返り

III 児童理解や学級経営等に関する事項

- 適切な指導
- 支援を要する児童への適切な支援
- 学級活動や掃除指導, 給食指導
- 状況を把握と的確な判断, 適切な指導
- 児童観察と児童理解

学級担任の基礎

IV 教科内容等の指導力に関する事項

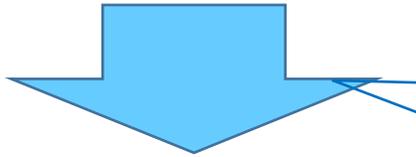
- 学習指導要領に基づいた単元構想
- 教材研究
- 適切な発問, 板書, 説明
- 付けたい力の明確化
- 「めあて」と「振り返り」のある授業
- 評価の観点に基づいた, 児童の把握と指導

独自で考えていい部分
もありますが、絶対
にずれてはいけない
ところ(指導事項)
があります。

教職の専門性の基礎

2. 教育実習全体のスケジュール(概要)

事前指導 6月5日(水) 附小前半・後半、公立学校、特別支援学校合同
・オリエンテーション ・講義 ・授業観察 ・授業分析 ・配属学級顔合わせ

- 
- 教科書購入、授業単元の事前学習
 - 学習指導要領の確認
 - 教科書会社のHP、朱書き等から指導計画の確認

事前指導 6月19日(水) 附小前半・後半、公立学校、特別支援学校合同
・大学講義(学習指導案作成演習、ICT・板書の構造化演習)

- 
- チャレンジ授業指導案作成

観察実習 前半6月24日(月)～28日(金) 後半7月1日(月)～5日(金)
・授業観察 ・学級経営観察 ・保護者対応、1年間の流れ講義 ・**チャレンジ授業**



大学講義 7月17日(水) 附小前半・後半、公立学校、特別支援学校合同
・大学講義(学習指導案作成演習＝板書指導案作成)
8月20日(火) 板書指導案2本提出



本実習 前半9月2日(月)～20日(金) 後半10月28日(月)～11月15日(金)
1週目…授業観察、授業実践、半日担任、教材研究、学級経営
2週目…授業観察(他学年)、授業実践、一日担任、教材研究、中間総括
3週目…授業観察、学年授業、授業分析、授業実践、一日担任、単元構想講義
実習のまとめ

2. 教育実習の内容 大まかなスケジュール

時期	主な実践内容
事前指導	○顔合わせ ○指導案作成のための準備 ○学年授業研の教科・単元名・日時・授業者 等
観察実習 観察 体験 目標設定	○記録のとり方を学ぶ ○授業の様子を見て記録をとる ○目標をもつ ○記録をとり分析する (子どもとの関わり方、授業、学級経営、学年経営) ○短学活や掃除、給食指導を行う ○教材研究を行う
本実習 第1週目 実践①	○新大分スタンダードの授業を目指した教材研究や実践を行う ○本時案授業(板書指導案)を実践する(1人1回) ○半日学級担任を行う(1人1回以上)
第2週目 実践② (活用)	○新大分スタンダードの授業を目指した教材研究や実践を行う ○目標を振り返り、中間総括をする ○学年授業研と事後研を行う ○1日学級担任を行う(1人1日以上)
第3週目 総括 (まとめ)	○新大分スタンダードの授業を目指した教材研究や実践を行う ○学年経営に参加する ○3週間を振り返り、総括をする(何なら授業のリベンジも)

3. 指導案作成を通じた教材研究に関わって

付けたい力・資質・能力
(学習指導要領の指導内容)

指導内容や評価規準は学習指導要領に基づいて

子どもたちが自ら進んで、
友だちと対話したり協力
したりしながら、深く考え
ていくように

**主体的・対話的で
深い学び**

到達させるための
手立て(活動や発問)
などを考えるのが
指導案作成

児童の実態

3. 指導案作成を通じた教材研究に関わって

指導と評価の一体化

評価規準・・・**学習内容** + **資質・能力**

文末表現は ～している。～ている。

～しようとしている。(興味・関心・意欲)

ねらい・・・**学習内容**(～を, ～について)

学習活動(～を通して)

資質・能力(～が出来るようになる) ← 評価規準の3観点から

めあて・・・「ねらい」を子どもの言葉で提示したもの。

かだい・・・解決の視点を含むもの。目当てをより具体化・焦点化したもの。

まとめ・・・課題に対応するもの。答えのようなもの。

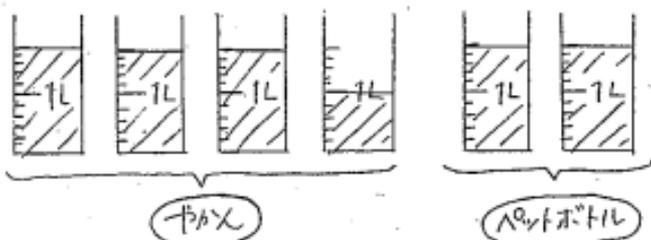
ふり返り・・・本時の学びを自覚させるもの。

※大切なのは型にこだわることではない。教科の特性や単元の展開, 本時のねらい等に応じて, 子どもに力を付ける展開を考えること。

4. 学習指導案作成について

9月9日(木) 3校時	2年2組 名前
単元名 かさの計算	5 / 時間目
<p>本時のねらい: かさについて、異なる容器に入った水のかさを合わせる活動を通して、合わせて水のかさや2つの水のかさのちがいかさの単位を用いた加法性、減法性で表せることを理解できるようにする。</p> <p>評価規準: かさの加法性、減法性について、標名数(L, dL)で表されたかさの加減計算ができる。(知識・技能)</p> <p>具体的な子どもの姿: 「かさの計算もとけまでの足し算、引き算と同じようにできる。」10dLより大きいばあいは、1Lのまとまりと1dLいくつかで表せる。</p>	

㉞ かさのたし算、ひき算ができるようにしよう。



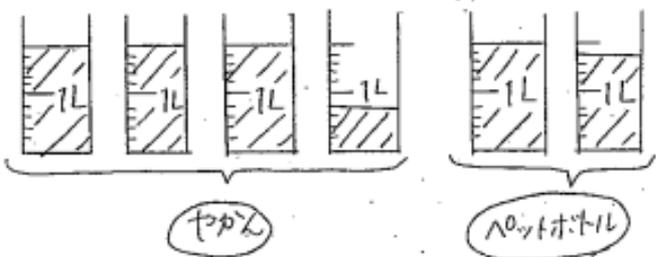
㉟ あわせて何L何dLでしょうか?

$$3L 5dL + 2L = 5L 5dL$$

㊱ ちがいは何L何dLでしょうか?

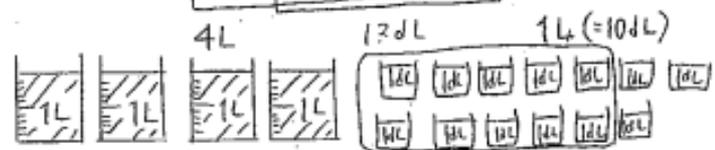
$$3L 5dL - 2L = 1L 5dL$$

㉞ かさの足し算の和が10dLをこえたら、どのように表せればよいだろうか?



㉟ あわせて何L何dLでしょうか?

$$3L 4dL + 1L 9dL = 5L 3dL$$



㊱ かさのたし算の和が、10dLより大きいばあいは、1Lのまとまりと1dLいくつかで表せればよい。

㊲ P109 ㉞㉟

㊳

- 指導
- 1リットルずつに注がれたやかんとホットボトルの水を目盛りが書かれていない透明の容器に移し、そこから単位を用いたかさの計算へ導く。
 - めあての確認を行う。くりあがりのない問題を提示する。
 - くりあがりが生じた問題を出し、そこからかごいの内容へと導く。考えさせる時間を設ける。
 - 児童が考え出してものを組み立て、まとめを導き出していく。
 - 練習問題 (P109 ㉞㉟)、ふりかえりを行う。

単元名 漢字の成り立ち

時間目

本時のねらい: 漢字の成り立ちについて、象形文字を見てどの漢字か推測する活動や、教師が例をもとに説明する活動を通して、それぞれ4つの文字の成り立ちのちがいを理解できるようにする。

評価規準: 漢字の成り立ちや由来について関心を持ってともに、特質を理解する。(知・技(口)ウ)

具体的な児童の姿: 「同じような形でも、ちがう成り立ちというところがわかる。」「ある漢字を見て、4つのうちどの文字かわかる。」

① 漢字を見て成り立ちがわかるようにしよう。



② 物の形をかたどった漢字を象形文字とどう?

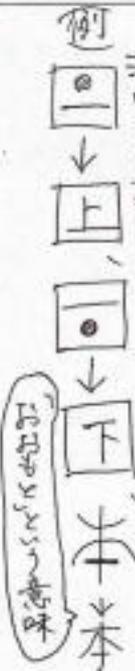
③ 漢字には何種類あるのだろうか?

Q: 上とか下はどうやって文字になった?

象形文字では表せない...

いあどんな文字で表す?

④ 表現しにくいものをよや線を使って表した漢字を指事・文字という。



⑤ 二つの意味を組み合わせることで漢字を会意・文字という。

例 イ(人)十立(立つ) ↓ 位

⑥ 人が立つ場所、くらゐ) 位置、地位、単位など...

⑦ 意味を表す部分と音を表す部分を組み合わせると漢字を形声文字という。

例 シ(みず) + 可(カ) ↓ 河

⑧ 大きな川、河口、河原など...

⑨ 食(食べる) + 反(ハン) ↓ 飯

⑩ 米、麦、粟を蒸したりした主食品。また、食事、飯、赤飯、飯合など...

⑪ 漢字には四種類あって成り立ちがそれぞれ異なる。

- 指導
- ① 「象」の漢字から象形文字の例を出し、象形文字について学ぶ。
 - ② 豆知識とともに説明しながら他の3つの文字を学ぶ。
 - ③ 練習問題を解く。(時間によるカット)
 - ④ 成り立ちの説明文から、どの文字の説明が当てはまるクイズをやる。
 - ⑤ 小利かえり: まとめ。

4. 学習指導案作成について

新大分スタンダード

R5年3月版

「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」を育成するワンランク上の授業を目指して

1_1 時間完結型

- *学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
- *学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
- *追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

2 板書の構造化

- *思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

3 習熟の程度に応じた指導

- *「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
- *「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫



4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

- *各教科等の見方・考え方を働かせて展開する「課題設定 → 情報収集 → 整理・分析 → まとめ・表現・交流 → 振り返り・評価」等の学習過程の繰り返しの中で行われる
 - ・知識の関連付け、問題の発見・解決、情報を精査した考えの形成、思いや考えに基づく創造
 - ・様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充

育成すべき資質・能力を見据え、授業の「ねらい」に即したICT活用

子ども主体の学びを支援
情報活用能力の育成

ICTの効果的な活用

- *各教科等の特質や学習過程を踏まえた活用
- *子どもの学びを広げ、深める活動で活用(思考の可視化、意見交流、学習の記録等)
- *子どもの興味・関心、実態に応じた活用



授業記録<授業を分析するより具体的な視点>

基礎的・基本的事項	準備	<ul style="list-style-type: none"> ・教材・教具の授業準備は十分である ・児童の発言や反応などの姿を予想している
	めあて	<ul style="list-style-type: none"> ・見ればすることが分かる ・児童と共有できている ・一方的に与えていない
	目線・動き	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を見ながら行っている ・必要に応じて黒板や教卓から移動して指導している ・指導案等をずっと抱えたまま授業を進めていない
	声	<ul style="list-style-type: none"> ・後ろの児童まで聞こえる大きさである ・速さは適切である ・間や抑揚など、メリハリがある
	発問	<ul style="list-style-type: none"> ・何度も言い換えていない ・話しすぎている ・児童の出番を保証している
	指名	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ多くの児童を指名している ・指名する児童に偏りが無い ・意図的な指名をしている
	板書	<ul style="list-style-type: none"> ・文字は大きさや濃さ、バランスは適切である ・文字を正しい書き順で書いている
	机間指導	<ul style="list-style-type: none"> ・記録をしている ・児童の学習状況を掴んでいる ・個別の支援をしている ・指名に活用している
	反応・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔である ・授業的な態度で臨んでいる ・毅然とした態度である ・注意や指摘ができる
	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・視点を示して振り返っている ・振り返りの共有がある ・振り返りにコメントしている

授業記録<授業を分析するより具体的な視点>

新大分スタンダードに関連する項目	指導と評価	ねらいの設定	<ul style="list-style-type: none"> ・指導要領に基づいている ・評価規準は適切である ・具体的な児童の姿を予想している
		手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な手立てがある ・手立てはねらいの達成に有効である
		ねらいの達成	<ul style="list-style-type: none"> ・評価箇所と評価方法が明記されている ・児童の達成状況の把握をしている（把握の手段がある）
	問題解決的展開	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に必然性がある ・単元に目的や相手意識がある ・児童が達成感を感じられる場面がある 	
	発問	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の思考を深める発問がある ・児童の発言をつなげている ・発言に理由や根拠を求めている 	
	主体的な学びの保証	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が思考する時間がある ・一問一答になっていない ・考えを書いたり、発表したりする場がある 	
	板書	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいに関わるキーワードがある ・色や強調などの工夫がある ・構造的で整理されている 	
	支援	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の方法を準備している ・児童の理解の程度を確かめている ・理解の厳しい児童に支援している 	
	協働的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ・協働的な学びを高めるような支援がある ・意図的、必然的なペア・グループ活動がある 	
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてや活動に関連した振り返りをしている ・振り返りに対する価値付けがある 		

4. 学習指導案作成について

指導と評価	することがわかるような「めあて」を板書に位置付けている
	解決のための具体的な手立てがある
	適切な振り返りや学びの価値付けがある
	学習指導要領に基づく授業のねらい(付けたい力)は達成できた
支援	机間指導は, どの児童にも行われている
	児童の理解の程度を確かめている
	理解の厳しい児童に支援している
生徒指導の 三機能	できるだけ多くの異なる児童を指名している
	児童に相槌を打ったり, 声をかけたりしている
	児童が考えたことを書いたり, 発表したりする場がある
	授業中に協働的な学びを高めるような声かけがある
	授業の妨げになるような行為や人の発言を聞かなかったり, 馬鹿にしたりするような態度をとった児童を毅然とした態度で諫めている
問題解決的 な展開	授業の中で児童が達成感を感じられる場面がある
	児童の思考を深めている
その他	児童全体を見ながら授業を行っている
	声の大きさや速さが適切
	黒板の字は大きく見やすい
	ねらいに関わるキーワードを板書に位置付けたり, 見やすく整理したりしている

添付されているキーマークシートを参考に、実習生が「授業内容が概観でき」「理解がある」と評価して下さい。

日時・記載者		月	日	曜日	校時	記載者()	
授業者・教科		年	組	記号	実習生()	教科()	
基礎的・基本的事項	準備	教材・教具などの授業準備がしている 児童の服装や机席などの準備がしている					
	めあて	見れば、わかることがある 児童と共有できている 一方向的に示していない					
	目標・動き	全体を見ながら行っている 必要に応じて黒板や教具から真似して指導している 指導要領をずっと読んだまま授業をすることがない					
	声	低めの声量で聞かせる大きさ →聞きが通じやすい 聞かせる際などの声は抑える					
	展開	何度も言い換えている 児童の出席を確認している →しゃべりすぎない					
	指名	できるだけ多く指名している →指名に偏りが無い 意図的に指名がある					
	板書	字が大きい →字が通じやすい 正しい書き順で書いている					
	机間指導	配線している →学習状況を観ている 個別の支援がしている →指名に活用している					
	反応・態度	笑顔がある →受容的な態度がある 自然とした態度がある →注意や指導ができる					
	振り返り	視点をあてて振り返っている →振り返りの機会がある 振り返りに込められている					
形式分析スタンダードに関連する項目	評価と評価	おんりの設定	指導要領に基づいている →評価規準は適切である 具体的な児童の姿を予想している				
		手立て	具体的な手立てがある →手立てはおんりの達成に有効であった				
		おんりの達成	評価規準と評価手法が明記されている →児童の達成状況の把握している(把握の手段がある)				
	理解促進的展開	展開	単元や目的や軸を意識がある →児童が達成感を覚える場面がある →活動に必然性がある				
		展開	児童の思考を深める展開がある →児童の発言をつなげている →発言に理由や根拠を求めている				
	主体的な学びの保障	展開	児童が思考する時間がある →一問一答にならない 考えを書いたり、発表したりする機会がある				
		板書	おんりに関わるキーマークがある →色や強調などの工夫がある →機能的で整理されている				
	協働的な学び	支援	支援の手立てを準備している →児童の理解の程度を確かめている →理解の進捗・児童に支援している				
		振り返り	協働的な学びを高めるような支援がある →意図的、必然的なペア・グループ活動がある				
	その他(感想等)	めあてや展開に関連した振り返りがしている →振り返りに対する評価付けがある					

実習期間中、同様の様式を使用して、実践の視点・指導の視点をそろえる。

実習生が互見授業で使用
担当教諭が観察・指導に使用
大学教員が観察で使用

評点	
4	よくしていた (81～100%)
3	めざす していた (61～80%)
2	ややしていなかった (31～60%)
1	ほとんどしていなかった (0～30%)

5. 校内における組織的な教育実習

附属職員用

令和6年度

大分大学教育学部附属小学校

教育実習要項

令和6年4月25日(木) 運営委員会決裁
実習主任(指導教諭)

令和6年度教育実習全体計画

1. 教育実習の目的(四校園共通)

教師として児童の教育に携わろうと志す者が、これまで学習してきた教育の理論や教科に関する専門的な知識を具体的な場で確かめるとともに、教育的な諸問題の解決を試みようとするを通して、教師としての人格と見識を磨き、教職を目指す者としての自覚を一層深めることができるようにする。

2. 求められる教師像～大分県教育委員会

- ① 専門的知識をもち、実践的指導力のある人
- ② 使命感にあふれ、高い倫理観と豊かな人間性をもつ人
- ③ 柔軟性と創造力をそなえ、未知の課題に立ち向かう人
- ④ 学校組織の一員として考え行動する人

3. 小学校実習において

◎学部1年生…教職入門ゼミ(10～11月 附属小学校にて) **運動会後に設定する**

150名が4回に分かれてくる

○学部2年生…教職展開ゼミ(大分市内公立校で実施)

◎学部3年生…主免実習 附属小学校または金池小・碩田学園にて

観察【前半】6/24～6/28【後半】7/1～7/5

本実習【前半】9/2～9/20【後半】10/28～11/15

4. 主免実習について

(1) 主免実習のねらい

全体指導・学年指導・担当教諭指導のそれぞれでPDCAを意識した指導を繰り返すことを通して、自分の授業や指導を自己分析し改善する力を付けることができるようにするとともに、自分は教師に向いているのか、自分は教師としてやっていけるのか等を判断していく一助となるようにする。

【学びのサイクル】



	【前半】	【後半】
観察実習	6月24日(月)～6月28日(金)	7月1日(月)～7月5日(金)
本実習	9月2日(月)～9月20日(金)	10月28日(月)～11月15日(金)

目次

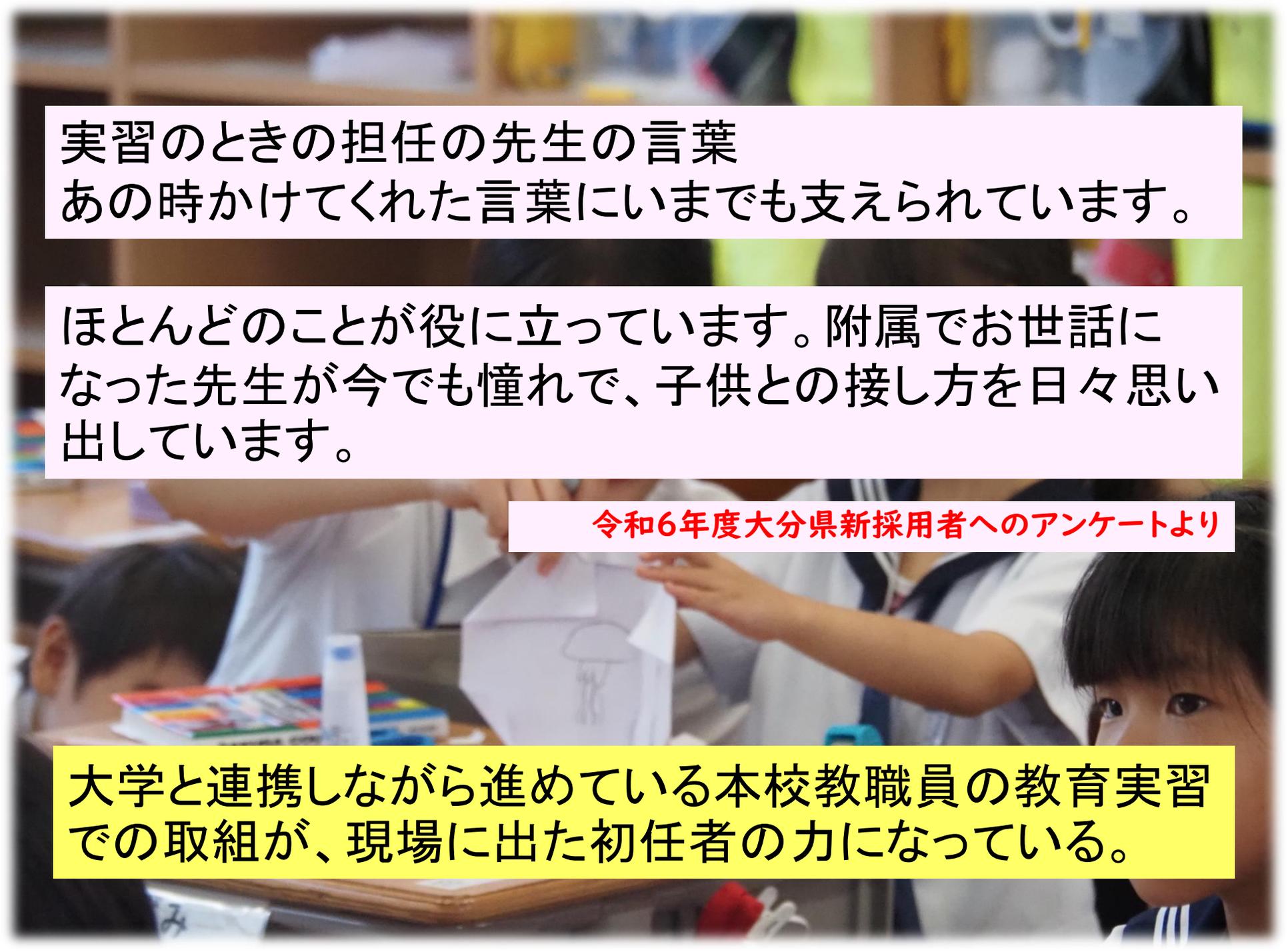
I	附属小学校の学校経営	2
II	実習生附属学級	4
III	教育実習	
	1. 教育実習の目的	5
	2. 教育実習で求められる姿	5
	3. 実習計画(内容)	5
	4. 実習中の行事予定等	9
	5. 実習中の指導内容等	11
	6. 諸注意	15
	7. 連絡事項(提出物, 給食関係)	16

IV 資料

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| ①校時表 | ②校内配置図 | ③新大分スタンダード |
| ④授業記録 | ⑤板書指導案作成(例) | ⑥実習生用授業観察シート |
| ⑦実習レポート(例) | | |

6. 大学との連携について

日程		教室・場所	講義・演習内容	講師
5月22日 4時限		教育学部	オリエンテーション ～実習の意義と心得～	教育実践センター 教員
5月29日(水) 4・5時限		教育学部	記録の取り方・分析について	教育実践センター 教員
6月5日(水) 8:00～ 16:10 事前指導	1・2時限	附属小学校	附属小の教育について 実習校における留意事項	附属小学校 校長・指導教諭
	3時限		授業観察及び 授業記録・分析演習	附属小学校 研究主任
	4時限		実習校の児童の観察・授業観察	附属小学校 教諭
	5時限		授業観察及び 授業記録・分析演習	附属小学校 指導教諭・研究主任
6月19日 (水)	4時限	教育学部	授業づくり及び 学習指導案作成について	附属小学校 指導教諭
	5時限		ICT・板書の構造化演習	附属小学校 研究主任
6月24日(月) 7月1日(月) 観察実習初日		附属小学校	オリエンテーション 指導案の書き方	附属小学校 指導教諭・研究主任
6月24日(月)～ 7月1日(月)～		附属小学校	1G 2G 観察実習	附属小学校 教諭
7月17日(水)		教育学部	学習指導案作成演習	教育実践センター 教員
9月2日(月)～ 10月28日(月)～		附属小学校	1G 2G 本実習	附属小学校 教諭
9月19日(木) 11月14日(木)		附属小学校	単元設定・単元構想講座	附属小学校 指導教諭・研究主任



実習のときの担任の先生の言葉

あの時かけてくれた言葉にいまでも支えられています。

ほとんどのことが役に立っています。附属でお世話になった先生が今でも憧れで、子供との接し方を日々思い出しています。

令和6年度大分県新採用者へのアンケートより

大学と連携しながら進めている本校教職員の教育実習での取組が、現場に出た初任者の力になっている。